

2018年度通期決算 電話会議 資料

2019年5月20日（月）

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

本日のポイント

2018年度 業績

- ・台風21号などの大規模災害が相次ぎ、国内自然災害による損害額は過去最大規模となったが、再保険回収や異常危険準備金取崩などで損失の多くをカバー、当期純利益は2018年11月の業績予想発表以降に発生したカリフォルニア山火事の影響により予想を72億円下回ったものの、前期比では386億円の増益となった。
- ・一定の異常危険準備金残高を確保するために追加繰入（MS250億円、AD150億円）を実施。

2019年度 業績予想

- ・海外事業の収益は、保守的に計画を立てているため、中計発表当初の計画を下回るものの、国内損保事業や国内生保事業は計画を上回って好調に推移しており、当期純利益については前期比72億円増益の2,000億円を見込む。

株主還元

- ・2018年度決算分は年間配当140円（前期比10円増配）と自己株式取得320億円を予定。
- ・2019年度決算分の年間配当は前期比10円増配の150円を予想。

全体目次

グループ連結	P5-13
国内損害保険会社	P14-16
国内生命保険会社	P17-18
海外保険子会社	P19
（参考）国内損保会社主要 2 社の業績概要	P20-22
（参考）MS Amlin 業績概要	P23
（参考）ESRの状況	P24

2019年度業績予想

グループ連結	P26-29
今回業績予想の主な前提	P30
国内損害保険会社	P31-32
国内生命保険会社	P33-34
海外保険子会社	P35
（参考）国内損保会社主要 2 社の概要	P36-37
（参考）MS Amlinの収益回復取組	P38-39

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」もご参照ください。

2018年度通期決算の概要

損保子会社

（億円）

	2017年度	2018年度		
		前期比	増収率	
元受正味保険料（除く収入積立保険料）※	35,687	36,844	1,157	3.2%
正味収入保険料※	34,469	35,004	534	1.6%
三井住友海上	15,003	15,124	121	0.8%
あいおいニッセイ同和損保	12,220	12,335	115	0.9%
三井ダイレクト損保	378	366	△ 12	△ 3.2%
海外保険子会社	6,823	7,146	322	4.7%

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社

（億円）

	2017年度	2018年度		
		前期比	増収率	
保険料（グロス収入保険料）※	15,081	15,999	917	6.1%
三井住友海上あいおい生命	4,925	5,042	116	2.4%
三井住友海上プライマリー生命	10,156	10,956	800	7.9%
生命保険料	10,582	12,868	2,285	21.6%

※ 保険料（グロス収入保険料）は国内生保子会社のみ

グループ連結（2018年度）①業績の概要 1（トップライン）

（損保子会社〔国内・海外〕）

- ・正味収入保険料は534億円、1.6%の増収。国内損保子会社、海外保険子会社ともに増収となった。
- ・国内損保主要2社の元受正味保険料は740億円、2.6%の増収、正味収入保険料では236億円0.9%の増収となった。自然災害にかかる追加の再保険料コスト（△245億円）や自賠償保険の減収はあったものの、火災保険や新種保険の増収が寄与した。
- ・海外保険子会社の正味収入保険料は、MS Amlinの増収やMS First Capitalの新規連結（192億円）等により322億円の増収。

（国内生保子会社）

- ・MSA生命：17ページを参照
- ・MSP生命：18ページを参照

（億円）

	2017年度	2018年度		
		前期比	増減率	
経常利益	2,115	2,908	792	37.5%
三井住友海上	2,625	2,264	△ 360	△ 13.7%
あいおいニッセイ同和損保	56	613	557	992.9%
三井ダイレクト損保	4	3	△ 0	△ 14.8%
三井住友海上あいおい生命	169	195	25	15.0%
三井住友海上プライマリー生命	289	355	66	23.0%
海外保険子会社	△ 1,043	226	1,270	-
その他・連結調整等	13	△ 751	△ 765	△ 5,574.7%
当期純利益※	1,540	1,927	386	25.1%
三井住友海上	1,982	1,711	△ 271	△ 13.7%
あいおいニッセイ同和損保	156	373	216	138.8%
三井ダイレクト損保	2	2	△ 0	△ 23.9%
三井住友海上あいおい生命	52	79	26	51.0%
三井住友海上プライマリー生命	292	233	△ 59	△ 20.2%
海外保険子会社	△ 1,046	193	1,240	-
その他・連結調整等	100	△ 665	△ 766	△ 760.0%

※ 連結の当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を記載。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

< 当期純利益 >

（グループ連結）

- ・海外保険子会社が前期の△1,046億円の赤字から193億円の黒字に改善したことを主因に386億円の増益。

（国内損保子会社）

- ・MSは△271億円の減益。国内自然災害ロスの増加影響により保険引受利益は△371億円の減益。
- ・ADは216億円の増益。海外自然災害ロスが前年を下回ったこともあり、保険引受利益は107億円の増益。
- ・自然災害を除くベースのEI損害率は、自動車保険が前期比△0.1ptの58.8%となり、全種目合計（除く家計地震・自賠責）では、56.7%と、2018年11月発表の業績予想で想定していた57.6%を0.9pt下回った。（21ページを参照）

（国内生保子会社）

- ・MSA生命は、保有契約の増加や商品改定による責任準備金負担の減少等により26億円の増益。
- ・MSP生命は、利ざや収入は増加したものの、販売増等に伴う手数料負担の増加や契約初年度の責任準備金負担の増加により△59億円の減益。

（海外保険子会社）

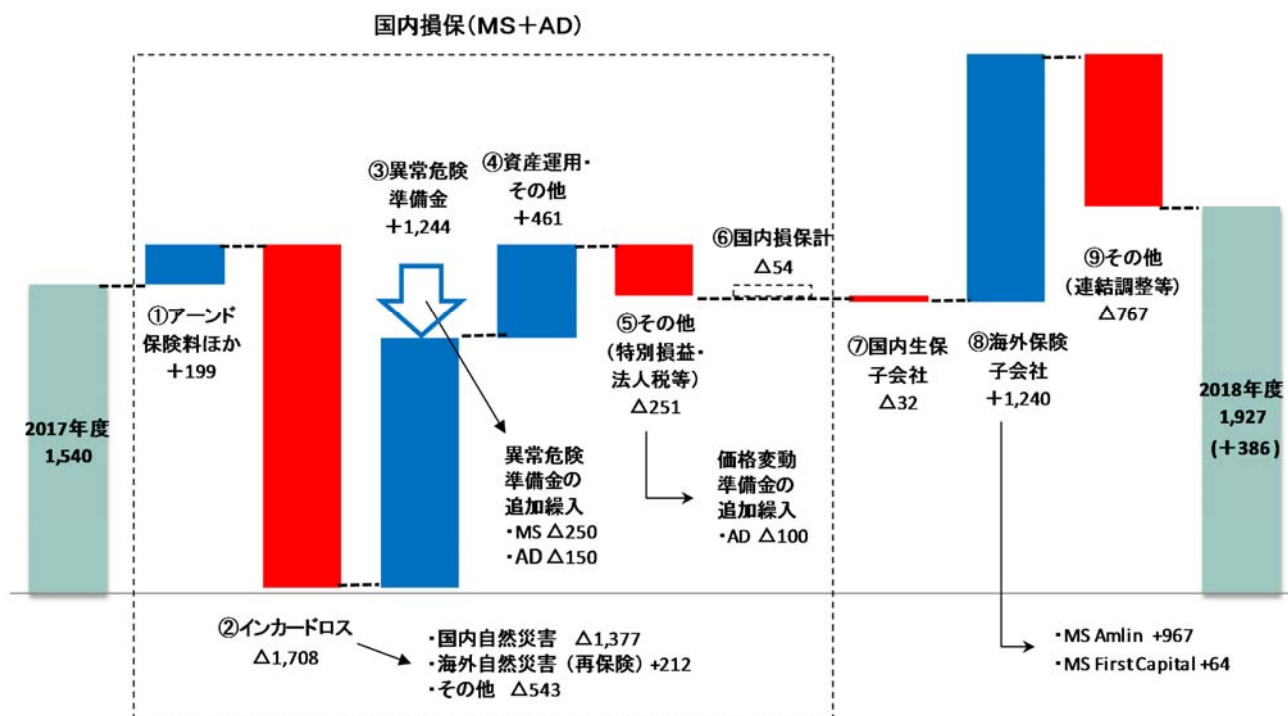
- ・海外保険子会社は1,240億円の増益。自然災害ロスの減少等によるMS Amlinの収益改善やアジアの増益が主因。

グループ連結（2018年度）②前期との比較 1

- ・当期純利益は、⑧の海外保険子会社の自然災害ロスが前期よりも減少したことなどから386億円の増益。
- ・国内損保2社は、②のインカードロスが国内自然災害の1,377億円増加を主因に△1,708億円となったものの、③の異常危険準備金取崩の増加1,244億円、④の資産運用・その他の461億円により△54億円の減益にとどまった。

連結純利益

(億円)



グループ連結（2018年度）②前年同期との比較 2

当期純利益の内訳

(億円)

	2017年度	2018年度	差額
当期純利益	1,540	1,927	386
国内損保 ^{※1} 保険引受利益 (除く家計地震・自賠責)	893	628	△ 264
アード保険料ほか ^{※2} ①	15,532	15,732	199
インカードロス (含む損害調査費) ②	△ 14,193	△ 15,901	△ 1,708
異常危険準備金損益 ③	△ 446	798	1,244
資産運用・その他 ④	1,788	2,249	461
その他 (特別損益・法人税等) ⑤	△ 543	△ 794	△ 251
国内損保計 ⑥	2,138	2,084	△ 54
国内生保子会社 ⑦	344	312	△ 32
海外保険子会社 ⑧	△ 1,046	193	1,240
その他 (連結調整等) ⑨	103	△ 663	△ 767

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「アード保険料ほか」には、事業費などが含まれる

グループ連結（2018年度）③グループ修正利益

・グループ修正利益は、国内外で自然災害が頻発したことから前期を下回ったが、再保険カバーが適切に機能したことや、自然災害の影響を除くベースの損害率が良好であったことなどから、2018年11月発表の業績予想の1,800億円を上回る1,898億円となった。

(億円)

	2017年度		2018年度	
				前期比
グループ修正利益 ※1	2,010	1,898		△ 111
国内損保事業	2,878	1,469		△ 1,409
国内生保事業	326	316		△ 9
海外事業	△ 1,250	54		1,304
金融サービス事業/リスク関連事業	56	58		1
グループ修正ROE ※1	6.4%	6.1%		△ 0.3pt

※1 「グループ修正利益」、「グループ修正ROE」の定義は最終ページご参照。

(参考)

$$\begin{array}{c} \text{グループ修正利益} \\ 1,898 \end{array} = \begin{array}{c} \text{連結当期純利益} \\ 1,927 \end{array} + \begin{array}{c} \text{異常危険準備金等} \\ \text{繰入・戻入額} \\ \Delta 437 \end{array} - \begin{array}{c} \text{その他特殊要因} \\ \Delta 394 \end{array} + \begin{array}{c} \text{非連結グループ会社} \\ \text{持分利益} \\ 14 \end{array}$$

※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△353、特別損益(除く価格変動準備金)等△41

※4 非連結子会社株式評価損の消去13を含む

グループ連結（2018年度）④当年度発生自然災害ロス（国内）

- ・元受のインカードロスは6,550億円となったが、再保険によりロスの約7割にあたる4,442億円を回収したことから、正味のインカードロスは2,108億円にとどまった。
- ・規模の大きかった3つの国内自然災害の最終支払見込件数は、東日本大震災の支払件数約19万件を超える約42万件。

国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス		支払保険金
		前期比	
三井住友海上	1,089	662	965
あいおいニッセイ同和損保	1,018	715	956
合計	2,108	1,377	1,921

(万件、億円)

	最終支払見込件数	最終支払見込額
7月豪雨(台風7号含む)	約 2	779
台風21号	約 27	4,364
台風24号	約 12	1,044
小計	約 42	6,188
上記以外		362
元受支払見込額 上記計		6,550
再保険回収見込額		△ 4,442
正味インカードロス		2,108

異常危険準備金（火災）期末残高

(億円)

	2017年度末残高	取崩額	繰入額		2018年度末残高
				うち、追加繰入額	
三井住友海上	1,294	817	413	250	890
あいおいニッセイ同和損保	1,374	923	298	150	749
合計	2,669	1,741	711	400	1,639

海外自然災害の影響※1

(億円)

	インカードロス			前期比
	カリフォルニア山火事	ハリケーン※2・その他	合計	
あいおいニッセイ同和損保	135	109	245	△ 197
MS Amlin	145	354	499	△ 385
合計	280	464	744	△ 583

※1 上記2社の海外自然災害

※2 ハリケーン・マイケル、フローレンスを含む

国内損害保険会社（2018年度）①主要2社の業績概要 1

- ・ アーンド保険料は、新種保険の増収を主因に291億円の増収。
- ・ 異常危険準備金の追加繰入（MS 250億円、AD 150億円）を実施したことなどから、保険引受利益は△264億円の減益。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
正味収入保険料※1	27,460	236	15,124	121	12,335	115
アーンド保険料※2	23,907	291	13,271	143	10,635	148
インカードロス(含む損害調査費)※2 (－)	15,901	1,708	8,571	819	7,329	889
保険引受に係る事業費※2 (－)	8,205	156	4,433	65	3,771	91
諸手数料及び集金費※2	4,880	103	2,580	66	2,300	37
営業費及び一般管理費※2	3,324	53	1,853	△ 0	1,471	54
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 169	△ 1,509	250	△ 752	△ 420	△ 756
異常危険準備金損益	798	1,244	222	380	575	863
保険引受利益	628	△ 264	473	△ 371	155	107
EI損害率※2	66.5%	6.4pt	64.6%	5.5pt	68.9%	7.5pt
正味損害率※1	66.9%	6.4pt	66.2%	4.6pt	67.8%	8.6pt
正味事業費率※1	32.5%	0.3pt	31.5%	0.2pt	33.8%	0.4pt
コンバインド・レシオ※1	99.4%	6.7pt	97.7%	4.8pt	101.6%	9.0pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ 自動車保険「もとリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2018年度）①主要2社の業績概要 2

- ・ 当期純利益は、保険引受利益の減益を主因に△54億円の減益。
- ・ 政策株式の売却額は、2018年11月発表の業績予想の売却額（1,180億円）を上回る1,367億円。

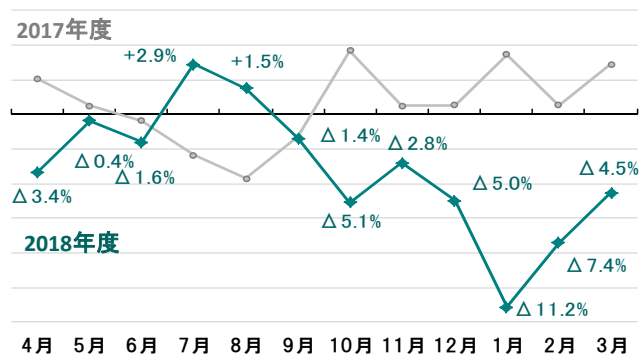
(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
保険引受利益	628	△ 264	473	△ 371	155	107
ネット利息及び配当金収入	1,212	78	816	100	396	△ 21
有価証券売却損益	1,331	△ 12	1,160	△ 27	170	14
有価証券評価損 (一)	61	△ 439	40	30	20	△ 469
資産運用・その他収支	2,249	461	1,791	10	458	450
経常利益	2,878	196	2,264	△ 360	613	557
特別損益	△ 168	△ 496	△ 31	△ 46	△ 137	△ 449
税引前当期純利益	2,709	△ 299	2,233	△ 407	476	108
法人税等	625	△ 244	522	△ 136	103	△ 108
当期純利益	2,084	△ 54	1,711	△ 271	373	216
		2社合計				
(参考)政策株式売却額	1,367	△ 146				

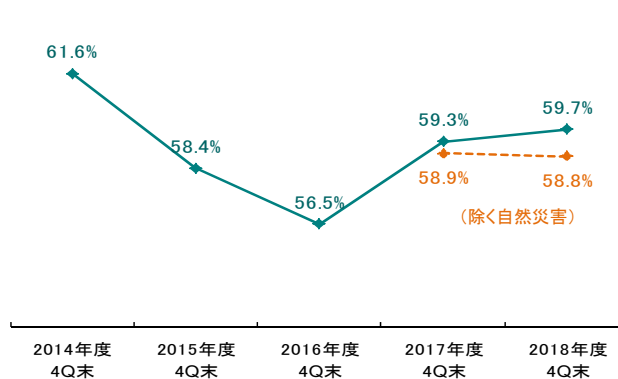
国内損害保険会社（2018年度）②自動車保険の状況

- ・ 事故件数は、年度累計で前期比△3.0%の減少。
- ・ 自然災害影響を主因にEI損害率は0.4pt上昇の59.7%。自然災害影響を除くベースのEI損害率は58.8%と△0.1pt低下。

事故件数の推移（国内、1日あたり、対前年同月。除く自然災害）
(MS・AD 2社単純合算ベース)



EI 損害率の推移（含む損害調査費）
(MS・AD 2社単純合算ベース)



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.4%	△ 0.5%	△ 0.1%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+2.2%	+1.9%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.1%	+0.1%	+0.1%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+4.1%	+4.1%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-3月)の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2018年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2019年3月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-3月

国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2018年度）業績概要

- ・新契約年換算保険料は、2018年2月発売の新医療保険等の新商品投入等により31.7%の増収。
- ・当期純利益は26億円の増益。
- ・EEVは、新契約価値により増加した一方、市場金利低下によるマイナス影響などにより、160億円の減少。

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2017年度	2018年度	
		前期比	増減率
新契約高（個人合計）	26,395	31,145	4,750 18.0%
新契約年換算保険料	388	511	123 31.7%
うち 第三分野	139	177	37 27.0%
保有契約高（個人合計）	238,068	245,331	7,262 3.1%
保有契約年換算保険料	4,123	4,315	191 4.6%
うち 第三分野	967	1,078	111 11.5%
保険料（グロス収入保険料）	4,925	5,042	116 2.4%
経常利益	169	195	25 15.0%
特別損益	△ 8	△ 11	△ 2 -
当期純利益	52	79	26 51.0%
基礎利益	128	155	27 21.6%
EEV	8,355	8,194	△ 160
純資産価値	4,463	5,154	691
保有契約価値	3,892	3,040	△ 851
うち新契約価値	474	657	183

国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2018年度）業績概要

- ・グロス収入保険料は、外貨建年金の販売増加を主因に定額商品が増収となったことから800億円の増収。
- ・当期純利益は△59億円減益。

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2017年度	2018年度	
		前期比	増減率
新契約高（個人合計）	10,156	11,182	1,026 10.1%
保有契約高（個人合計）	60,618	66,785	6,166 10.2%
保険料（グロス収入保険料）	10,156	10,956	800 7.9%
経常利益	289	355	66 23.0%
特別損益	115	△ 35	△ 150 -
当期純利益	292	233	△ 59 △ 20.2%

金利・為替影響

(億円)

金利影響	50	9
為替影響	△ 236	△ 25
合計	△ 186	△ 15

海外保険子会社（2018年度）業績概要

- ・ 正味収入保険料は、MS First Capitalの新規連結を主因に4.7%の増収（為替影響を除いたベースでは296億円、4.3%の増収）。
- ・ 当期純利益は、欧州の赤字幅縮小やアジアの増益により、前期比1,240億円の大増益。

海外保険子会社

(億円)

	2017年度	2018年度	
		前期比	増減率
正味収入保険料	6,823	7,146	322 4.7%
アジア	1,625	1,840	214 13.2%
欧州	4,704	4,860	155 3.3%
(うちMS Amlin)	4,296	4,477	181 4.2%
米州	493	445	△ 47 △ 9.6%
当期純利益	△ 1,046	193	1,240 -
アジア	107	261	154 143.8%
欧州	△ 1,247	△ 190	1,057 -
(うちMS Amlin)	△ 1,104	△ 137	967 -
米州	35	40	4 13.6%
海外生保*	58	82	23 41.1%

※ 2018年度より海外生保を区分表示

(ご参考) 国内損害保険会社（2018年度）主要2社の業績概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	3,826	3.1%	1,988	1.1%	1,838	5.4%
海上	704	3.7%	622	3.0%	81	8.8%
傷害	2,153	3.0%	1,513	2.5%	639	4.3%
自動車	13,421	△0.1%	6,570	△0.3%	6,850	0.1%
自賠責	3,373	△4.0%	1,780	△3.5%	1,592	△4.7%
その他	3,981	4.9%	2,648	5.2%	1,332	4.4%
合計	27,460	0.9%	15,124	0.8%	12,335	0.9%
除く家計地震・自賠責	24,078	1.6%	13,338	1.4%	10,739	1.8%

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度) 主要2社の業績概要 2

EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2017年度	2018年度	前期比	2017年度	2018年度	前期比
火災 (除く家計地震)	76.7%	111.9%	35.2pt	48.8%	56.6%	7.8pt
海上	60.1%	60.9%	0.8pt	57.9%	58.7%	0.8pt
傷害	52.6%	51.2%	△1.4pt	52.6%	51.1%	△1.5pt
自動車	59.3%	59.7%	0.4pt	58.9%	58.8%	△0.1pt
その他	50.1%	55.2%	5.1pt	48.6%	52.0%	3.4pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	60.1%	66.5%	6.4pt	55.1%	56.7%	1.6pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度) 主要2社の業績概要 3

EI損害率 (三井住友海上(単体)、あいおいニッセイ同和損保(単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比		前期比
火災 (除く家計地震)	109.1%	37.3pt	115.0%	32.7pt	62.2%	8.6pt	50.5%	7.3pt
海上	56.3%	△2.8pt	97.2%	28.3pt	53.8%	△3.8pt	97.0%	37.0pt
傷害	51.5%	△1.4pt	50.5%	△1.5pt	51.4%	△1.5pt	50.4%	△1.5pt
自動車	59.5%	0.2pt	59.9%	0.6pt	58.7%	△0.2pt	58.9%	0.1pt
その他	52.9%	1.6pt	59.8%	12.0pt	49.6%	△0.4pt	56.9%	11.0pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	64.6%	5.5pt	68.9%	7.5pt	56.4%	0.7pt	57.0%	2.7pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額

(ご参考) MS Amlin 2018年度(2018年1-12月期)業績概要※1

- ・ 当期純利益は、下期の自然災害の発生を主因に△94百万ポンドとなったが、前期比ではインカードロスの減少を主因に666百万ポンドの増益。(業績の要因分析は38-39ページ参照)

(百万ポンド)

	2017年度	2018年度	
			前期比
正味収入保険料	2,955	3,050	95
アード保険料	2,918	3,048	130
インカードロス(含む損害調査費)	2,826	2,171	△655
手数料・社費	1,089	1,095	6
保険引受利益	△964	△174	790
資産運用損益※2	181	54	△127
その他損益※3	△98	38	135
当期純利益	△760	△94	666

EI 損害率	96.9%	71.2%	△25.7pt
EI 事業費率※4	36.1%	34.5%	△1.6pt
EI コンバインド・レシオ※4	133.0%	105.7%	△27.3pt

※1 現地管理ベース(前年同期数値についても組替)

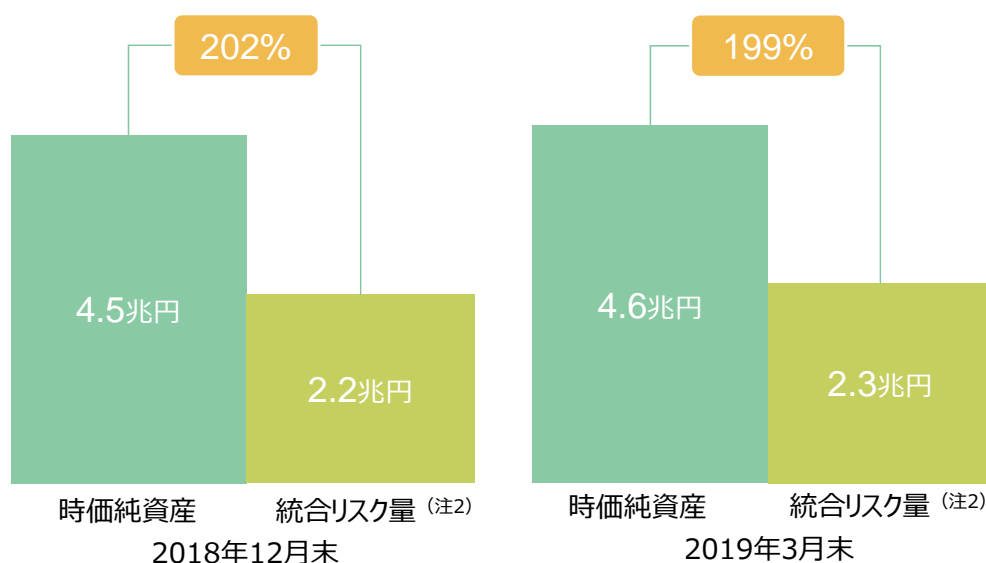
※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等。なお、2018年度にはLeadenhall Capital Partners LLPの売却益および人員削減に伴う退職一時金等が含まれる。

※4 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を入れて算出

(ご参考) ESRの状況

ESR(注1)



<ESRの主な増減要因> (2018年12月末対比)

ESRは、主に以下のような要因により、3pt下落。

- ↘ 国内金利の低下による時価純資産の減少およびリスク量の増加
- ↗ 劣後債の発行に伴う時価純資産の増加
- ↗ 政策株式の売却による株式リスクの減少

<市場環境前提>

	2018年 12月末	2019年 3月末	対12月末
日経平均株価	20,015円	21,206円	+1,191円
為替(ドル円)	111円	111円	△0円
国債30年金利	0.72%	0.51%	△0.21pt

(注1) ESR : エコノミック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

2019年度業績予想

グループ連結（2019年度業績予想）①概要1（トップライン）

- ・ 損保子会社の正味収入保険料は、海外保険子会社では減収となるものの、国内損保子会社の火災保険、新種保険、自動車保険等で増収し、235億円の増収となる見込み。
- ・ 生保子会社のグロス収入保険料は、MSP生命の減収を主因に△749億円の減収を予想。

損保子会社 (億円)

	2018年度	2019年度(予想)		
			前期比	増収率
正味収入保険料 [※]	35,004	35,240	235	0.7%
三井住友海上	15,124	15,410	285	1.9%
あいおいニッセイ同和損保	12,335	12,610	274	2.2%
三井ダイレクト損保	366	368	1	0.5%
海外保険子会社	7,146	6,810	△ 336	△ 4.7%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社 (億円)

	2018年度	2019年度(予想)		
			前期比	増収率
保険料(グロス収入保険料) [※]	15,999	15,250	△ 749	△ 4.7%
三井住友海上あいおい生命	5,042	5,220	177	3.5%
三井住友海上プライマリー生命	10,956	10,030	△ 926	△ 8.5%
生命保険料	12,868	11,430	△ 1,438	△ 11.2%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結（2019年度業績予想）①概要2（ボトムライン）

(億円)

	2018年度	2019年度(予想)	
			前期比
経常利益	2,908	2,980	71
三井住友海上	2,264	1,820	△ 444
あいおいニッセイ同和損保	613	680	66
当期純利益※	1,927	2,000	72
三井住友海上	1,711	1,360	△ 351
あいおいニッセイ同和損保	373	400	26
三井ダイレクト損保	2	1	△ 1
三井住友海上あいおい生命	79	100	20
三井住友海上プライマリー生命	233	170	△ 63
海外保険子会社	193	380	186
その他・連結調整等	△ 665	△ 411	254
ROE(財務会計ベース)	6.8%	7.1%	0.3pt

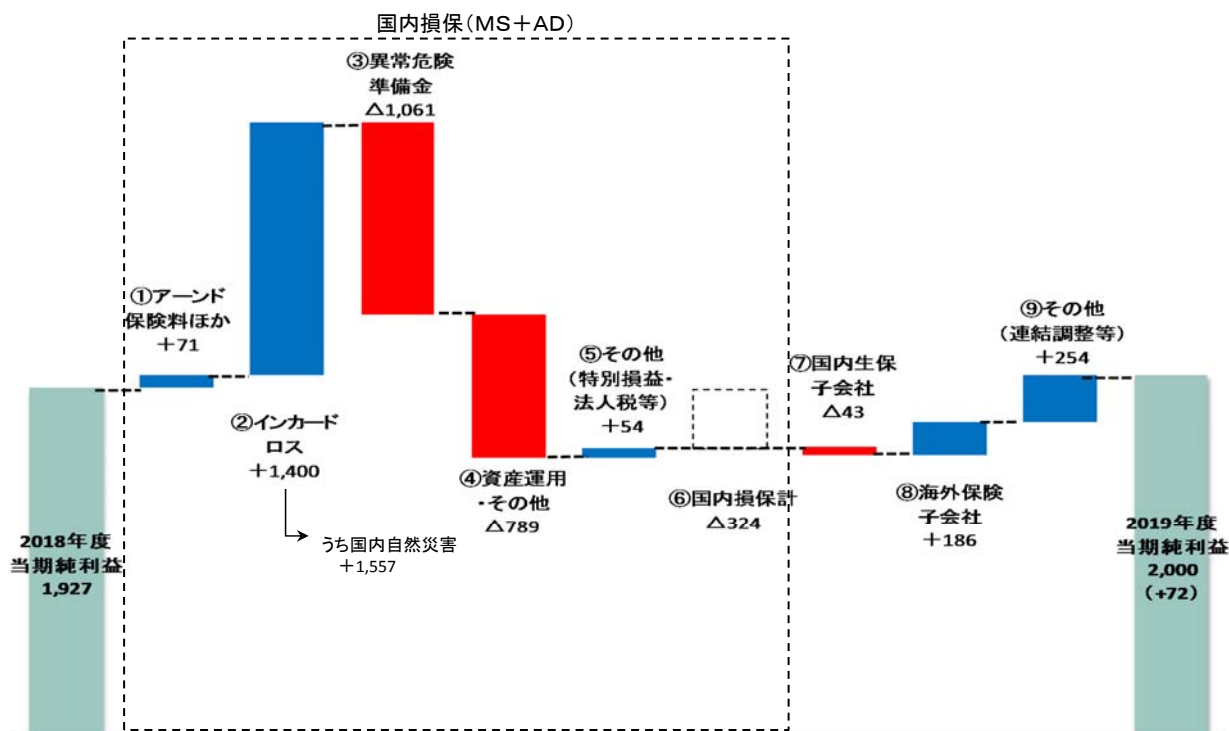
※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結（2019年度業績予想）②前期比増減要因

- ②のインカードロスは国内自然災害の減少を主因に1,400億円の増益要因。一方、③の異常危険準備金損益は、前期の多額の取崩益の反動により△ 1,061億円、④の資産運用・その他は、有価証券売却益の減少を主因に△ 789億円の減益要因となり、国内損保2社計は△ 324億円の減益。⑧の海外保険子会社はMS Amlinの改善を主因に186億円の増益。

連結純利益の前期比増減要因

(億円)



グループ連結（2019年度業績予想）③グループ修正利益

- 国内損保事業は自然災害の減少を主因に390億円の増益。海外事業もMS Amlinの収益改善を主因に365億円の増益。

(億円)

	2018年度	2019年度(予想)	
			前期比
グループ修正利益	1,898	2,630	731
国内損保事業	1,469	1,860	390
国内生保事業	316	290	△ 26
海外事業	54	420	365
金融サービス事業/リスク関連事業	58	60	1
その他経営数値目標			
MSA生命 EEV	8,194	9,270	1,076
グループ修正ROE	6.1%	8.7%	2.6pt

今回業績予想の主な前提

	三井住友海上		あいおいニッセイ同和損保	
市場環境の前提	2019年3月末の水準を想定			
	(参考(2019年3月末) 日経平均 21,206円、米ドル 111円、ユーロ 125円、英ポンド 145円)			
国内自然災害	330億円	(△ 759億円)	220億円	(△ 798億円)
異常危険準備金	213億円	(△ 199億円)	231億円	(△ 67億円)
(火災保険)	109億円	(△ 708億円)	160億円	(△ 763億円)
	104億円	(+ 508億円)	71億円	(+ 696億円)
異常危険準備金	213億円	(+ 2億円)	227億円	(+ 7億円)
(自動車保険)	142億円	(+ 38億円)	338億円	(+ 109億円)
	71億円	(△ 35億円)	△ 111億円	(△ 101億円)
法定実効税率	27.9%			

※ 海外自然災害について、MS Amlinは267億円。あいおいニッセイ同和損保は145億円。

※ あいおいニッセイ同和損保で、価格変動準備金の追加繰入100億円を繰込。

※ ()内は前期比

国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 1

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
正味収入保険料 ^{※1}	28,020	559	15,410	285	12,610	274
アーンド保険料 ^{※2}	24,354	446	13,484	212	10,870	234
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2}	(-)	△ 1,400	7,793	△ 778	6,708	△ 621
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-)	361	4,648	214	3,919	147
諸手数料及び集金費 ^{※2}	5,027	146	2,668	87	2,359	58
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,540	215	1,980	127	1,560	88
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,303	1,472	1,060	808	243	663
異常危険準備金損益	△ 263	△ 1,061	△ 300	△ 522	37	△ 538
保険引受利益	1,040	411	760	286	280	124
EI損害率 ^{※2}	59.5%	△ 7.0pt	57.8%	△ 6.8pt	61.7%	△ 7.2pt
正味損害率 ^{※1}	61.7%	△ 5.2pt	60.9%	△ 5.3pt	62.8%	△ 5.0pt
正味事業费率 ^{※1}	33.2%	0.7pt	32.4%	0.9pt	34.2%	0.4pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	94.9%	△ 4.5pt	93.3%	△ 4.4pt	97.0%	△ 4.6pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 2

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
保険引受利益	1,040	411	760	286	280	124
ネット利息及び配当金収入	1,077	△ 135	721	△ 95	356	△ 40
有価証券売却損益	724	△ 607	552	△ 608	172	1
有価証券評価損 (-)	92	30	62	21	30	9
資産運用・その他収支	1,460	△ 789	1,060	△ 731	400	△ 58
経常利益	2,500	△ 378	1,820	△ 444	680	66
特別損益	△ 197	△ 28	△ 37	△ 6	△ 160	△ 22
当期純利益	1,760	△ 324	1,360	△ 351	400	26

主要項目

(億円)

	2018年度	2019年度（予想）	
			増減率/前期比
新契約高 [※]	31,145	28,341	△9.0%
新契約年換算保険料 [※]	511	321	△37.3%
保有契約高 [※]	245,331	250,556	2.1%
保有契約年換算保険料 [※]	4,315	4,545	5.3%
保険料(グロス収入保険料)	5,042	5,220	177
経常利益	195	219	24
当期純利益	79	100	20

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

主要項目

(億円)

	2018年度	2019年度（予想）	
			増減率/前期比
新契約高	11,182	11,227	0.4%
保有契約高	66,785	72,780	9.0%
保険料(グロス収入保険料)	10,956	10,030	△ 926
経常利益	355	278	△ 77
当期純利益	233	170	△ 63

海外保険子会社

(億円)

	2018年度	2019年度(予想)		
			前期比	増減率
正味収入保険料	7,146	6,810	△ 336	△ 4.7%
アジア	1,840	1,810	△ 30	△ 1.7%
欧州	4,860	4,527	△ 332	△ 6.8%
(うちMS Amlin)	4,477	4,126	△ 351	△ 7.9%
米州	445	473	27	6.1%
当期純利益	193	380	186	96.0%
アジア	261	162	△ 99	△ 37.9%
欧州	△ 190	34	223	-
(うちMS Amlin)	△ 137	62	199	-
米州	40	31	△ 9	△ 23.3%
海外生保	82	153	70	86.3%

(ご参考) 国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	4,010	4.8%	2,121	6.7%	1,889	2.7%
海上	677	△3.8%	604	△2.9%	73	△10.4%
傷害	2,015	△6.4%	1,465	△3.2%	550	△14.0%
自動車	13,733	2.3%	6,647	1.2%	7,086	3.4%
自賠責	3,470	2.9%	1,833	2.9%	1,637	2.8%
その他	4,114	3.3%	2,739	3.4%	1,375	3.2%
合計	28,020	2.0%	15,410	1.9%	12,610	2.2%
除く家計地震・自賠責	24,543	1.9%	13,573	1.8%	10,970	2.1%

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(ご参考) 国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 2

EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	58.0%	Δ53.9pt	56.3%	Δ52.8pt	60.0%	Δ55.0pt
海上	53.2%	Δ7.7pt	56.3%	0.0pt	26.8%	Δ70.4pt
傷害	53.5%	2.3pt	52.5%	1.0pt	56.1%	5.6pt
自動車	62.0%	2.3pt	60.8%	1.3pt	63.1%	3.2pt
その他	56.8%	1.6pt	54.8%	1.9pt	61.0%	1.2pt
合計(除く家計地震・自賠責)	59.5%	Δ7.0pt	57.8%	Δ6.8pt	61.7%	Δ7.2pt
(除く自然災害影響)	56.7%	0.0pt	55.4%	Δ1.0pt	58.4%	1.4pt

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカドロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

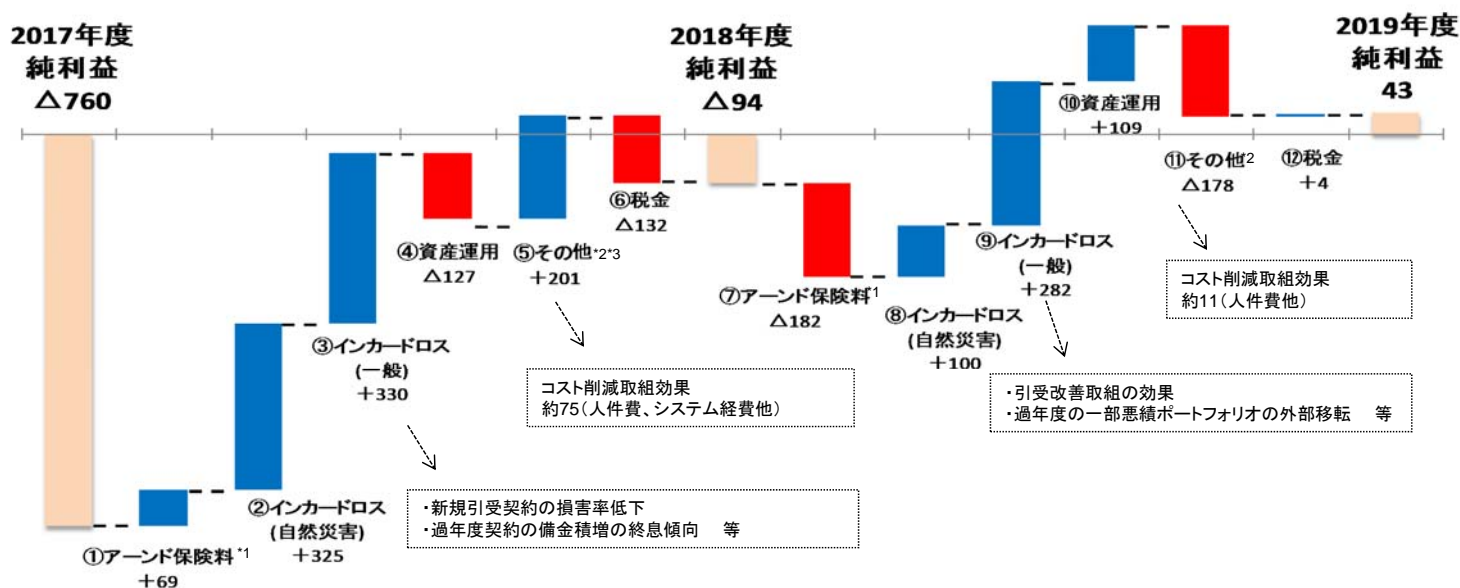
※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

(ご参考) MS Amlin 収益回復取組

純利益の前期比増減要因

(単位:百万ポンド)



2017

2018

2019

*1 ①⑦は手数料控除後

*2 その他は、社費、為替差損益、その他損益、特別損益の合計

*3 Leadenhall Capital Partners LLPの売却益を含む

2018年度

- 自然災害については、世界の保険業界において、2017年度の1,430億米ドル*に続き、2018年度も760億米ドル*という大規模な損害を記録した。MS Amlinにおいても、2018年度の自然災害インカードロスは、ハリケーンマイケル、フローレンスおよびカリフォルニア州山火事などの影響で、合計340百万ポンドとなったが、前期比で大幅な改善となった。

*出所: スイス再保険会社 sigma No 2/2019

- 一般保険リスクは、引受条件の見直しや適用料率の引上げなどの改善取組により、インカードロスは前期比で330百万ポンド減少し、損害率は10ポイント超改善した。
- 前年比で大幅な経費削減を行い、EI事業費率は1.6ポイント改善した。
- 資産運用益は、米国株式が好調に推移した前期に比べ、債券市場の変動影響、および2018年末の株価下落の影響により、127百万ポンドの減少となったが、54百万ポンドの運用益を確保した。

2019年度

- 自然災害は、リスクモデルによる計算に基づき184百万ポンド(2018年度年初計画比+17百万ポンド)を見込む。
- 一般保険リスクについては、引受ポートフォリオの改善を継続し収益力の回復を図っていく。
- 資産運用益は、運用環境の安定を前提に163百万ポンドを見込む。
- 事業費削減取組を継続するとともに、中長期的な収益性を踏まえたポートフォリオ改革、業務プロセスの最適化を進め、収益力の強化を進める。
- 純利益は43百万ポンドを見込む。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株)
- MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険株)
- あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険株)
- 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険株)
- 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険株)
- 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険株)
- MS Amlin (＝MS Amlin plc)
- MS First Capital (＝MS First Capital Insurance Limited)

「グループ修正利益」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等）+ 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/contact/index.html>